

2021/3/6

(うとQ世話し「逆も又、真也」では)

生活が便利で安心安全であればある程、人間の生物由来の力(生命力、生存能力、危機対応能力)は相反反比例して「弱体化」していく。

反面「無意識に感じる万が一の到来」への「内在的恐怖心」は「便利、安全、安心」に寄りかかる加重度合に比例して、気づかぬ内に徐々増幅し、高まっていく。

弱体化の例をちょっと挙げてみます。

聞き慣れたところでは

「日常生活で車を使えば使う程、足腰は弱まっていく」

昨今では

「AIに頼れば頼るほど、脳の働きは衰える」

等が挙げられるか想定されます。

暫く前の話ですが、ある新参ECサイトの代理店から「御社も代理店契約をしませんか？」という話が持ちかけられました。

それによると、自分傘下の代理店が増えれば増えるほど、傘下からの実入りも増え、かなりの金額になるとの話でした。

「なんだかネズミ講みたいだな」

と思いましたが、その勧誘者は更に続けて、傘下の代理店を増やす「有望な商品」のプレゼンテーションをPC上で行いました。

その商品は「現代の健康志向にとってもマッチした、天然素材由来のエアコン専用洗浄液で手に優しく、エアコン素材も傷つけず、オマケに奥様方が尤も気にする除菌、殺菌効果が抜群であるのに、人体への悪影響は殆どゼロ。価格は一本8000円とかなり根が張るのですが、それにも拘わらずニーズを捉えて健康志向やお子様の安全を気遣う奥様方に飛ぶ様に売れている」

との事でした。

で、その時、瞬間的に自分が思ったのは

「過剰防衛だな。この話を食うや食わずの非衛生極まりない環境で、避難途中のシリアやロヒンギャ族の難民家族が耳にしたらどう思うだろう？」

でした。

そしてそれとは反対のイメージとして

「1本8000円洗が生活の必需品である親子が、突如ワープして泥水や牛馬の糞尿が散乱する難民避難街道に舞い降りたら、一体どうするのだろうか？1週間生きていけるのだろうか？」何も平時の我が国(今はコロナ渦で戦時下も同様ですが)日々サバイバル訓練や、それに近いサバイバル生活を送れ、等という気は毛頭ございませませんが、今少しは平時と危機時の距離を縮め、もう少しバランスの取れた、どちらにでも身動きできるライフスタイルを取っても良いのではないのかな？思うのです。

少なくとも「万が一の到来」に怯え、更に「便利、安全、安心」方向へと、更に穴蔵奥深くに潜り込むように、外の日差しとは反対の方向を目指すよりは、その正反対へ踵を返し、チャイルドシート付自転車の例に例えれば、雨風よけのビニール風防を取り去って、外の風や日差しに直に当てる方向への転換は必要なのではないのかな？と思った次第です。

「逆も又、真也」

である場合もあります故。

追記)

その伝に従えば、家庭内教育も又然り、では。

日頃家庭内でちやほやされて育った子が、突如面接会場に降り立ったらどうなるか？

「パニック」

でしょう。

日頃から「時には褒め時には叱る」事も肝要かと。